

セアカゴケグモ にご注意を!!

「セアカゴケグモ」は、オーストラリア等熱帯～亜熱帯地域を原産地とする**毒グモ**で、わが国では外来生物法で**特定外来生物**として指定されています。

香川県でも、平成21年9月以降、高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、さぬき市、東かがわ市、三豊市、土庄町、小豆島町、三木町、宇多津町、綾川町、多度津町、まんのう町で発見されています。

「セアカゴケグモ」は、攻撃性もなくおとなしいクモですが、**毒を持っていますので、見つけても絶対に素手で捕まえないようにしてください。**

また、セアカゴケグモは車などに付着して運ばれ、各地でも見つかる場合があると思われるので、発生していない地域でも十分注意してください。

■ 体の特徴

成体のメスは約7～10mmで、全体的に黒色又は濃い褐色です。

特に**腹部の背の部分に赤色の帯状の模様がある**のが特徴です。

成体のオスは約3.5～6mmで、腹部の背の部分に白い斑紋があります。

咬むのは主にメスでオスによる咬傷事例は無いと言われています。

腹部背面に赤い模様

身体は黒色で成熟してくると茶色がる

腹部は大きな球状

腹部腹面にも砂時計型の赤い模様

四対の長い脚

体長7～10mm

体長3.5～6mm

メス

オス

■ 生息場所

「セアカゴケグモ」は、日本国内には生息していなかったクモですが、平成7年に大阪府高石市で初めて発見されて以降、これまで31自治体で発見されています(平成29年2月14日現在)。

「セアカゴケグモ」は、日当たりが良く暖かいところや昆虫などの餌が豊富なところに生息しています。

例えば

- ・ 花壇まわりのブロックのくぼみや穴、植木鉢の下、ビニールハウスなど温室
- ・ 排水溝の側面やふた(グレーチング)の裏側
- ・ クーラーなどの室外機や自動販売機との壁のすきま
- ・ 墓地の花立てや線香立てなどの石のすきま

などです。

■ 駆除方法

セアカゴケグモを見つけたら、**市販の殺虫剤（ピレスロイド系）を噴霧するか、靴で踏みつぶして駆除してください。**

卵（卵のう：卵の入っているふくろ）は、棒きれなどでクモの巣ごとからめ取り、その場で**焼却**するかビニール袋に入れて**完全に踏みつぶしてください。**（卵には殺虫剤の効果が薄いようです。）



在来のおオヒメグモなどは、セアカゴケグモと同じ「ヒメグモ科」のクモで、形が似ていることから間違いやすいので注意してください。
※形は似ていますが、赤い模様はありません。

卵のうの直径 6mm~11mm



■ 咬まれたときの対応

咬まれたときは**針で刺されたような痛み**を感じ、その後、咬まれたまわりが腫れ、赤くなります（痛みは次第に全身に広がることもあります）。直ちに傷口を水道水で洗い、患部を冷やしましょう（包帯や止血帯はしない方がよい）。悪化すると、全身症状（吐き気、さむけ等）が現れることもありますので、患部を冷やしながら、**※直ちに病院に行きましょう（乳幼児の場合は救急車を呼びましょう）。**

治療に関しては、お近くの医療機関までお問合せください。

※ 病院に、咬まれたクモを殺して、ビニール袋等に入れて持参してください。より適切な治療につながります。

■ 対策

- ・外で作業するときは、手袋をしましょう
- ・不用意に側溝等の隙間に手を入れないようにしましょう。
- ・クモの生息しそうな場所は、こまめに清掃したり整理整頓したりして、セアカゴケグモの住みにくい環境づくりをしましょう。



このチラシのダウンロードは、

<http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/shizen/gairaisyu/pdf/seakagokegumo.pdf>



特定外来生物は、飼育・栽培・保管・運搬・販売・譲渡・輸入などが

原則禁止されています。詳細は、<http://www.env.go.jp/nature/intro/>

《連絡先》

香川県環境森林部 みどり保全課

電話：087-832-3212 FAX：087-806-0225

midorihozen@pref.kagawa.lg.jp